

▼一〇頁▲

補充 「名を虎榜に連ね、ついで江南尉に補せられた」(一〇・一)頃の李徴はどのような人物だったか。最も適当なものを、次から選べ。思

ア 眼光鋭く不正を決して見逃さない、正義感の強い人物。

イ 人との交際は苦手だが、才能と温情にあふれた人物。

ウ 自分に劣等感を持ち、ひたすら努力を続ける人物。

エ 広い知識を持ち優秀だが、頑固で自負心が強い人物。

答 エ

脚問 「詩家としての名」(一〇・四)に李徴はどのような価値を認めているか。思

答 自負心を満たすための、官吏に代わる一手段としての価値。

▼一一頁▲

補充 再び地方官吏の職を得た李徴が「快々として楽しま」(一一・二)なかったのはなぜか。思

答 昔、歯牙にもかけなかった同輩の命令を謹んで受けなければならぬことが、李徴の自尊心を傷つけたから。

発問 第一段落では李徴はどのような性格の人物として描かれているか。思

答 自負心が強く頑固で他人と協調することのできない性格。

発問 李徴が失踪するまでの経緯を、箇条書きで整理せよ。思

答 ①若くして進士の試験に合格、江南尉になる↓
 ②自分の地位に不満をいだき退官、帰郷し詩家をめざす↓
 ③文名は揚がらず、生活は困窮、焦燥に駆られる↓
 ④貧窮に堪えず、また詩業にも半ば絶望、再

び一地方官吏になる↓
 ⑤歯牙にもかけなかったかつての同輩の下命を拝することに不満、自尊心が傷つく↓
 ⑥一年後、汝水のほとりで発狂、闇の中へ駆け出し、二度と戻ってこなかった

▼一二頁▲

発問 何が「あぶないところだった」(一二・六)のか。思

答 虎としての李徴が袁俊に襲いかかり、今にも食い殺そうとしたこと。

発問 袁俊はどのような人物として描かれているか。箇条書きで整理せよ。思

答 ①李徴と同年に進士の試験に合格し、監察御史となっている。②友人の少なかった李徴の最も親しい友。③温和な性格。

発問 「しばらく返事がなかった。しのび泣きかと思われるかすかな声が時々漏れるばかりである」(一二・11)からは、李徴のどのような心情がうかがえるか。思

答 かつての友人に自分の姿が虎になっているということを確認される恐れと、久しぶりに会ったかつての友人に人間として対面したいが、もはや異類の姿になっている自分にはそれができないという迷いや悲しみ。

補充 「異類の身」(一二・15)とは、李徴が何の身であることを言ったものか。思

答 虎

補充 李徴は「異類の身」(一二・15)である今の自分の姿をどのように思っているか。それを表現した語句を第二段落から二つ探し、六字と七字で抜き出せ。思

答 あさましい姿・醜悪な今の外形

▼一三頁▲

補充 「かつて君の友李徴であったこの自分」(一

三・3)とあるが、かつて李徴にとつて袁慆ほどのような「友」であったか。解答欄に合うように、第二段落から、1は二字、2は六字で抜き出せ。思
「1」に進士になり、李徴にとつては「2」であった。

答 1 同年 2 最も親しい友

脚問 「後で考えれば不思議だったが、そのとき、袁慆は、この超自然の怪異を、実に素直に受け入れて、少しも怪しもうとしなかった」(一三・5)という一文は、どのような効果を上げているか。思

答 怪異を素直に受け止める点から、狷介な李徴と友人になれるという懐の深さを持つ温和な袁慆の性格を補強するとともに、人間が虎になるという常識では考えられないことに対して読者の抵抗感を少なくする効果。

発問 「見えざる声と対談した」(一三・7)とは、どういうことか。思

答 目の前にいるが、姿を見せようとならない李徴の声だけを聞きながら語り合ったということ。

▼一四頁▲

発問 李徴が虎になった経緯をまとめよ。思

答 今から一年ほど前、汝水のほとりに宿泊した夜、戸外から自分の名を呼ぶ声に応じて無我夢中で駆けて行くうちに、いつの間にか虎となっていた。

脚問 「理由も分からずに押しつけられたものをおとなしく受け取って、理由も分からずに生きていくのが、我々生きもののさだめだ」(一四・14)から

は、李徴のどのような心情がうかがえるか。思

答 虎になるという不条理な運命を無理にでも納得しようとする心情。

▼一五頁▲

発問 「それはとうてい語るに忍びない」(一五・3)のはなぜか。思

答 人間の気持ちで、獣である己の所行を振り返っ

て見た時、それがあまりに非道で残忍だから。

発問 「自分」から「おれ」(一五・9)という表現に変わったのはなぜか。思

答 感情的に高ぶってきたから。

補充 「これは恐ろしいことだ」(一五・9)とある

が、何が恐ろしいのか。最も適当なものを、次から選べ。思

ア 他の生き物を殺すことに罪悪感を持っていたのに、仕方がないと思い始めたこと。

イ 自分が人間であることではなく、虎であることを前提として考えるようになったこと。

ウ 人間としての心が還ってくる数時間が、日を経るに従って長くなってきたこと。

エ 自分が虎となったことを怪しんでいたのに、運命だと割り切るようになったこと。

答 イ

補充 「古い宮殿の礎がしだいに土砂に埋没するよう」(二五・11)とは、何がどうなることをたと

えた表現か。第三段落の表現を用いて答えよ。思

答 李徴の中の人間の心が、獣としての習慣の中にすっかり埋もれて消えてしまうこと。

発問 「おれの中の人間の心がすっかり消えてしま

えば、おそらく、そのほうが、おれは、しあわせになれるだろう。だのに、おれの中の人間は、そのこと

を、このうえなく恐ろしく感じているのだ」(二五・16)からは、李徴のどのような心情がうかがえるか。思

答 人間性を失って完全に虎になってしまった方が、罪悪感に苦しめられることもなく気持ちが楽になるとは思うが、人間性を喪失してしまうことに恐怖も抱いている。

▼一六頁▲

補充 「そのことを、このうえなく恐ろしく感じているのだ」(二六・2)とあるが、このとき李徴は

何がなくなることを「恐ろしく感じている」のか。本文中の表現を用いて答えよ。思

答 自分の中の人間の心。

補充 李徴の「一つ頼んでおきたいこと」(一六・五)

とは何か。思

答 李徴が作った詩のうち、今でも覚えているものを伝録してほしい、ということ。

発問 「これを我がために伝録していただきたいのだ……死んでも死にきれないのだ」(一六・12)からは、李徴のどのような心情がうかがえるか。思

答 自分の詩を人々の記憶の中に何としても残したいという悲痛な執念。

▼一七頁▲

発問 「欠けるところ」(二七・7)とは何か。思

答 省略。

補充 李徴の「旧詩」(一七・9)を聞いて、袁俊が感じたことをまとめた次の文の解答欄に合う表現を、1は四字、2は二字、3は六字で、本文中から抜き出せ。思

作者の「1」を思わせると「2」する一方、「3」となるのはどこか欠けるところがある、と感じていた。

答 1才の非凡 2感嘆 3第一流の作品

発問 「李徴の声」が「突然調子を変え」(一七・10)

たのはなぜか。思

答 詩人になったつもりで熱心に自作を朗詠していたが、虎になった我が身のことを振り返って生来の自嘲癖が顔を出したから。

▼一八頁▲

補充 李徴の「即席の詩」(一八・3)の形式を答えよ。知

答 七言律詩

補充 李徴の「即席の詩」(一八・3)で、韻を踏んでいる四つの漢字を答えよ。知

答 逃・高・豪・嘩

発問 「偶因狂疾成殊類……不成長嘯但成嗥」(一八・6)の詩を現代語訳せよ。思

答 思いがけなく狂気にとりつかれて獣になってしまった。災いが重なりそこから逃れることはできない。虎となった今日、私の鋭い爪や牙にいった誰が歯向かうというのだろうか(いや、誰も歯向かわない)。かつての私はあなたとともに世間の評判が高かった。ところが、今や私は獣となり草むらに隠れ、あなたはすでに出世して立派な車に乗り、氣勢が盛んである。旧友に再会した今宵、溪谷や山間を照らす明月に向かつて、今の悲しい思いを詩にして長く吟じようとしても、ただ獣の短い咆哮にしかならない。

脚問 「人々はもはや、事の奇異を忘れ、肅然として、この詩人の薄倖を嘆じた」(一八・11)からは、「人々」のどのような心情がうかがえるか。思

答 李徴の身の上起きた不可思議な出来事について疑うことを忘れ、不幸な運命を背負うことになった李徴の気持ちに同情して、深く悲しんでいる。

▼一九頁▲

発問 「臆病な自尊心と、尊大な羞恥心」(一九・7)

とは、どのような心理か。思

答 「臆病な自尊心」…自分の内面や実力を他人に示すことによって、自分が自分に対して行っている評価よりも低い評価を受けることを恐れる心理。
「尊大な羞恥心」…羞恥心を悟られないように、わざと尊大な態度をとることによって他人と交わることを避けようとする心理。

補充 「己の珠にあらざることを惧れるがゆえに、あえて刻苦して磨こうとせす」(一九・8)とあるが、これはどのような心情だと言え換えられているか。

るか。第五段落から三十二字で抜き出せ。思

答 才能の不足を暴露するかもしれないとの卑怯な危惧と、刻苦を厭う怠惰

脚問 「人間は誰でも猛獣使いであり、その猛獣に当たるのが、各人の性情だ」(二九・11)とは、どういうことか。思

答 人間は、それぞれ自己の内面に(猛獣のように)荒々しい性情を持っていて、それを人間的な理性で制御しなければならぬということ。

補充 「これがおれを損ない、妻子を苦しめ、友人を傷つけ、果ては、おれの外形をかくなごとき、内心にふさわしいものに変えてしまった」(一九・12)とあるが、このとき李徴は自分を虎に変えたものは何だと考えているか。本文中から二つ、それぞれ六字で抜き出せ。思

答 臆病な自尊心・尊大な羞恥心

▼二〇頁▲

発問 「おれの空費された過去」(二〇・7)とは、具体的にはどのような過去か。思

答 「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」という自己の性情のために、才能を専一に磨かず「わずかばかりの才能を空費して」しまった自らの過去。

補充 「おれの空費された過去」(二〇・7)とあるが、李徴は過去において何を空費したと述べているか。本文中から二字で抜き出せ。思

答 才能

脚問 「おれの毛皮の濡れたのは、夜露のためばかりではない」(二〇・13)とは、どういうことか。思

答 李徴が悲しみの涙で濡れたということ。

▼二二頁▲

補充 李徴は「もう一つ頼みがある」(二二・5)として「妻子のこと」(二二・6)を述べているが、

詩の伝録より後にこれを頼んだことについて、李徴はどのように考えているか。李徴の考えが書かれた形式段落の最初の六字を抜き出せ。思

答 本当は、まず

発問 李徴が「決して今日のことだけは明かさないでほしい」(二二・11)と言うのはなぜか。二点に分けて答えよ。思

答 (1)自分が失踪したことですでに苦しんでいるはずの妻子に、自分があさましい姿で残酷な行為を繰り返していること知らせて、妻子をさらに苦しめたくないから。

(2) 獣として恥ずかしい姿で生きていると思われるより、人間として尊厳を保つたまま死んだと思われたいから。

▼二二頁▲

脚問 「おれが人間だったなら」(二二・5)とあるが、李徴は「人間」をどのようなものと考えているか。思

答 自己中心的・利己主義的な生き方を排し、他者を愛し守ることができる存在。

▼二三頁▲

脚問 「再びその姿を見なかった」(二三・4)の主語は誰か。また、この表現はどのような効果をしているか。思

答 主語：袁修ら一行。

効果：作品に余韻を与え、異類となって人間の世界とは別の世界で生きていかねばならない李徴の孤独を表すとともに、その存在を暗示することによって、人間の内的猛獣の不気味さに思いを至らせる効果。

▼思考力問題▲

補充 『山月記』に袁修が登場することで、作品全体にどのような効果を与えているかについて、四人

の高校生が意見を交換した。明らかに読み誤っているものを、次から一つ選べ。思

ア 袁修は出世の道を歩むいわばエリート官僚で、虎となって人間の世界を離れてしまった李徴とは対照的な人物として登場しているよね。つまり、袁修との対比によって、李徴が置かれた悲惨な状況がより強調される仕掛けになっているんじゃないかな。

イ 「温和な袁修の性格が、峻峭な李徴の性情と衝突しなかった」とあるように、性格面も袁修と李徴とは対照的だよね。そして、温和な袁修は監察御史となり、峻峭な李徴は虎となってしまふ。つまり、人生は持つて生まれた性格によって最初から決まっているという作品の最大のテーマが、袁修と李徴の対比によって明確になる仕掛けになっていると思う。

ウ 「袁修は、この超自然の怪異を、実に素直に受け入れて、少しも怪しもうとしなかった」という描写があるけれど、袁修が素直に怪異を受け入れることで、人間が虎になるという不思議な話であっても、無理なく読者を引き込むことができているんじゃないかな。

エ 李徴の告白を読者は袁修を介して聞くことになるよね。ということは、袁修の視点に読者の視点も重なることになるから、李徴の心情を客観的にとらえて分析することができる仕掛けにもなっていると思う。

【答】

イ

▼てびき▲
学習

1 本文全体から、虎になる前の李徴の人柄を箇条書きで整理し、文章でまとめてみよう。思

【答】

〔箇条書きで整理〕

・博学才類。

・狷介、自ら恃むところすこぶる厚い。

・峻峭な性情。

・(昔の青年李徴の) 自嘲癖。

・臆病な自尊心と、尊大な羞恥心。

・(人間だったころ、おれの) 傷つきやすい内心。

・飢え凍えようとする妻子のことよりも、己の乏しい詩業のほうを気にかけているような男。

〔文章でまとめる〕

秀才だが、狷介・峻峭でプライドが高く、他人との協調性や妻子に対する思いやりに欠けるころがある。一方で、臆病な自尊心と尊大な羞恥心の持ち主で自嘲癖があり、その内心は傷つきやすいものであった。

2 李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているか。まとめてみよう。思

【答】 はじめは、理由もなく押しつけられる生きもののさだめと考えていたが、後に自分の性情を自己分析してみると思い当てるころがあるとして、「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」と、妻子のことより詩作へ執着する心とが虎になった理由であると考えられるに至った。

言語活動

1 作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜか。考えてみよう。知思主

【答】 (例)

・内面がその外形までも変えるという極端な誇張を通じて、人間の内面の問題について、読者に強く訴えかけるため。

・虎は獐猛な獣として知られ、群れをなさず単独で行動する。そのため、李徴の発狂に至るほどの激しい内面の状況と、孤独なあり方を象徴する対象として虎は適当であったから。

・作者が描こうとした李徴像が、原典である「人虎伝」の虎のあり方と合致していたため。

2 この作品に袁修が登場することで、作品全体にどのような効果を与えているか。話し合ってみよう。

知思主

【答】 (例)

・官僚として出世の道を歩む袁修との対比によって、

虎となって人間の世界を離れ、山間に生きる李徴の現状を強調する効果。

・怪異を素直に受け入れる袁傚によって、人間が虎にならぬという奇異なストーリーに無理なく読者を引き込む効果。

・袁傚の視点に読者の視点が重なることによって、李徴の心情を客観的にとらえ、分析することができるようになる効果。

ことばと表現

1 この作品における表現上の特徴について、気づいたことをあげてみよう。 **思**

答
(例)

① 漢文訓読調になっている。

② 短めの文が多く、簡潔に書かれている。

③ 「自分」「おれ」と李徴の一人称が場面によって変わる。

④ 李徴が自らの境遇・内面を語る発言の分量が多い。